

フットサルレフェリーズ正誤表(2020/21競技規則改正対応)

<P5>

● サッカーとフットサルの競技意上の主な相違点

- ・交代要員 フットサル 7人 サッカー 7人登録のうち3人まで
- ・タイムアウト フットサル 前後半 1回ずつ(各1分間)



- ・交代要員(公式試合) フットサル 最大9人 サッカー 最大5人登録、うち3人まで
- ・タイムアウト フットサル 第1ピリオド、第2ピリオド 1回ずつ

★ 他のページにある“前半”は第1ピリオド、“後半”は第2ピリオドとなる

<P6>

- ⑤ 違反、反則があった場合



- ⑤ 反則があった場合

★ 他のページにある“違反”はすべて“反則”となる

<P7>

第3 審判

- ④ 各チームの累積ファウルを記録し、5つ目の累積ファウルのとき



- ④ 各チームの累積ファウルを記録し、各ピリオド 5つ目の累積ファウルのとき

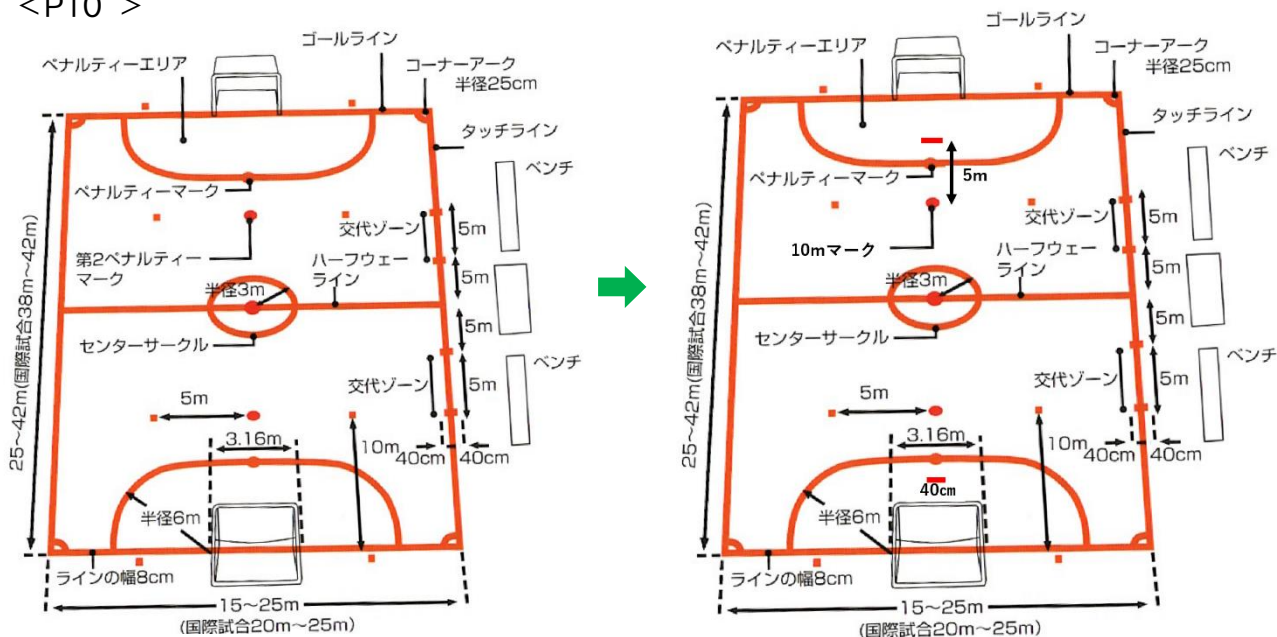
タイムキーパー

- ② スコアボードが設置されている場合、得点、累積ファウル、前後半を表示する。



- ② スコアボードが設置されている場合、得点、累積ファウル、第1、第2ピリオドを表示する。

<P10 >



交代ゾーン

- ① 各チームベンチ前に設けられる。前後半で替わる。

↓

- ① 各チームベンチ前に設けられる。

- ② チームベンチは、前後半で入れ替わる。

↓

- ② チームベンチは、ハーフタイムのときに入れ替わる。

<P12>

ベンチ入する交代要員とチーム役員

- ① 交代要員の数は、最大7人

↓

- ① 交代要員の数は、最大9人

<P13>

- 膝やひじのプロテクターの着用が認められる。ただし、それらの色は、ショーツやシャツの色と同じ、あるいは黒か白(黒ならば黒、白ならば白で統一)とする。

<P21>

- ② コイントスに勝ったほうがエンド(どちらの方向に攻めるか)を決める。

↓

- ② コイントスに勝ったほうがエンド(どちらの方向に攻めるか)かあるいはキックオフするのかを定める。

<P22>

- ⑤ キックオフをするチームの競技者がセンターマークに置かれたボールを前方にける。

↓

- ⑤ キックオフをするチームの競技者がセンターマークに置かれたボールをける(後方にけっても良い)。

<P23>

チェックポイント

- ◎キックオフが正しく行われない

← ボールを前方にけらない

- ・ ボールがインプレーになる前に相手ハーフに入る。また、守備側競技者がセンターサークルに入る。

↓

- ・ キッカーを除いて、ボールがけられて明らかに動く前に相手ハーフに入る。また、守備側競技者がセンターサークルに入る。

◎ キックオフから直接得点することができない。



キックオフから直接得点することができる。

<P26>

キックインの場所

① タッチラインからボールが出た。



ボールがタッチラインを越えた地点、または、その地点から25 cm以内の場所

② ボールが偶然天井に当たった



天井に当たった地点に最も近いタッチライン上、または、その地点から25 cm以内の場所

<P27>

① ボールをタッチライン上、または、タッチラインから25 cm以内の場所に置く



タッチライン上にボールを置く(ボールがタッチラインを越えた地点)

② 片方の足の一部をタッチライン上かラインの外のピッチ面につける



立ちの足の位置は、ラインの外でも中でもよい。

③ ボールはけられてピッチ内に入ったときにインプレーとなる。



ボールはけられて明らかに動いたときにインプレーとなる。

* ボールをタッチラインの外側において正しい方法でキックインをしたところ、ボールがピッチの外に入ることなく離れてしまった場合、キックインのやり直し。ライン上に置いてキックしたボールがそのままピッチの外に出た場合は、相手チームのキックインとなる。



* ボールをタッチラインの外側において正しい方法でキックインをしたところ、ボールがピッチの外に入ることなく離れてしまった場合、キックインのやり直し。ライン上に置いてキックしたボールがそのままピッチの外に出た場合は、相手チームのキックインとなる。

<P28>

攻撃側競技者が最後に触れてボールがゴールラインを越えたとき、ゴールキーパーがペナルティーエリア内から手でボールを投げ入れて(ゴールクリアランス)プレーが再開される。



攻撃側競技者が最後に触れてボールがゴールラインを越えたとき、ゴールキーパーがペナルティーエリア内から**手でボールを投げて**(ゴールクリアランス)プレーが再開される。

<P29>

③ ボールがインプレーとなるタイミング ➡ ペナルティーエリアの外のピッチ内に出たとき



③ ボールがインプレーとなるタイミング ➡ ボールが明らかに手から離れたとき

⑨ ボールがペナルティーエリアから出る前に他の競技者がボールに触れたら ➡ クリアランスのやり直し。



⑨ ボールがペナルティーエリアから出る前に他の競技者がボールに触れたら ➡ 相手競技者がペナルティーエリア内にいた場合を除いて、プレーを続ける
(ただし、相手競技者がエリアからでる時間がなく、クリアランスが行われたならば、そのままプレーを続ける)。

<P31>

③ ボールがインプレーとなるタイミング ➡ ボールがけられるか触れられたら



③ ボールがインプレーとなるタイミング ➡ ボールがけられて明らかに動いたら

<P32>

ボールがインプレー中に、フリーキックやペナルティーキックなど競技規則に規定されていない理由でプレーが一時的に停止された場合、プレーを停止したときにボールのあった地点でボールをドロップしてプレーを再開する。



ボールがインプレー中に、フリーキックなど競技規則に規定されている理由以外でプレーが一時的に停止された場合、プレーを停止したときにボールがあった地点、あるいはペナルティーエリアの任意の地点にボールをドロップしてプレーを再開する。

プレーを停止するケース

⑤ 主審・第2 審判の承認なく交代要員がピッチに入った。



⑤ ピッチ内に入った主審・第2 審判などにボールが当たった。

ドロップボールの進め方

① 腰の高さから、ボールを落とす。

② ボールは、ピッチ面に触れたときインプレーとなる。

③ 競技者は、ボールがインプレーになるまでボールに触れない。

④ ドロップした後、競技者が触れることなくボールがピッチの外に出た場合、やり直す。



① ボールを停止したときにボールがあった地点がペナルティーエリア内の場合、エリア内の任意の地点でゴールキーパーに対してボールをドロップする。

② ペナルティーエリア外の場合、プレーを停止したときにボールがあった地点で、ボールを最後に触れた競技者のチームにボールをドロップする。

- ③ ボールを受ける競技者以外の競技者(味方も含め)は、ボールをドロップする位置から 2m 上離れる。
- ④ 腰の高さから、ボールを落とす。
- ⑤ ボールは、ピッチ面に触れたときインプレーとなる。
- ⑥ 競技者は、ボールがインプレーになるまでボールに触れない。
- ⑦ ドロップした後、競技者が触れることなくボールがピッチの外に出た場合、やり直す。

<P33>

- * ~~プレーを停止したときにボールがあった地点がペナルティーエリア内の場合、その地点に最も近いペナルティーエリアライン上でボールをドロップする。~~
- * ~~ドロップボールに参加する競技者の数は、定められていない。→ 競技者が重傷を負って、主審・第 2 審判がプレーを停止したときのドロップボールに参加するのは 1 人が一般的である。~~

<P34>

- ⑤ 前後半(延長前後半)の試合時間終了のブザーの直前、または同時にシュートされたボールがその後、直後、~~得点が認められる。~~
- ~~ボールがゴールキーパー以外の競技者に当たった場合、そこで終了。~~
- ~~シュートの直後、壁なしのフリーキック、またはペナルティーキックとなる反則が犯されたならば壁なしのフリーキック、またはペナルティーキックが行われる。~~

↓

- ⑤ 各ピリオド(延長前後半)の試合時間終了のブザーの直前に PK または 壁なしのフリーキック、またはペナルティーキックとなる反則が犯されたならば壁なしのフリーキック、またはペナルティーキックが行われ、それぞれのキックの途中で試合時間が終了しても、キックの結果がでるまで、プレーは続ける(キック直後にブザーが鳴り、その後ボールがゴールに入ったら得点を認める)。
- ⑥ 偶然にゴールが動き、本来の両ゴールポスト間でボールの全体がゴールラインを完全に越えたならば、得点が認められる。ただし、攻撃側競技者がゴールを動かした場合は得点ではなく、守備側競技者が動かした場合は、得点が認められる。不正にゴールを動かした競技者には懲戒の罰則が与えられる(得点を阻止したら、RC)。

<P35>

ボールが直接ゴールに入ったら？ プレーの再開方法は？

- キックオフから
- 相手ゴール ➡ ノーゴール ➡ 相手チームのゴールクリアランス
- ↓
- 相手ゴール ➡ ゴールイン ➡ 相手チームのキックオフ

<P38>

交代の手順

- ① 交代要員は第 2 審判の動きの邪魔にならないよう

↓

交代要員は、主審・第 2 審判の動きに邪魔にならないよう

チェックポイント

- ◎ 交代は第2審判が監視する



- ◎ 第3審判は、交代を監視する。

<P43>

次の⑧～⑩の反則を犯した場合(犯しただけで反則となる)、ファウルとなる。



次の⑧～⑫の反則を犯した場合(犯しただけで反則となる)、ファウルとなる。

- ⑧ スピッティング 相手につばを吐く。



- ⑧ バイティング/スピッティング 人をかむ、人につばを吐く

- ⑩ ハンドリング



- ⑩ ハンドの反則

★ ⑪と⑫の追加

- ⑪ インピーディング(接触あり) 相手に接触をして進行を止める

- ⑫ ボールや物を相手などに投げる、または物をボールに当てる

★ チェックポイントの追加

ピッチ外で反則が犯された場合、反則の位置に最も近いライン上でフリーキックが与えられる。

(例) テクニカルエリア内で相手をトリップする ➡ その位置に最も近いタッチライン上から

ペナルティーエリアの後方で相手をキックする ➡ ペナルティーキック

<P45>

- ⑥ オブストラクション



- ⑥ インピーディング(接触なし)

<P46>

- ⑦ 主審・第2審判の承認なしに意図的にピッチから離れる



- ⑥-2 主審・第2審判の承認なしに意図的にピッチから離れる。

<P46>

イエローカードやレッドカードは、競技者や交代要員に対して示される。チーム役員などに対しては、カードを示さず口頭でその旨を伝える。



イエローカードやレッドカードは、競技者や交代要員、またチーム役員に対しても示される。

<P48>

④ ハンドリング



④ ハンドの反則

⑤ 決定的な得点のチャンスをハンドリング以外の反則で阻止する。



⑤ 決定的な得点のチャンスをハンドの反則以外の反則で阻止する(ゴールキーパーが自分のゴールの前で守備しているときには、この退場の反則を犯しているとはみなさない)。

<P49>

チェックポイント

★ 追加

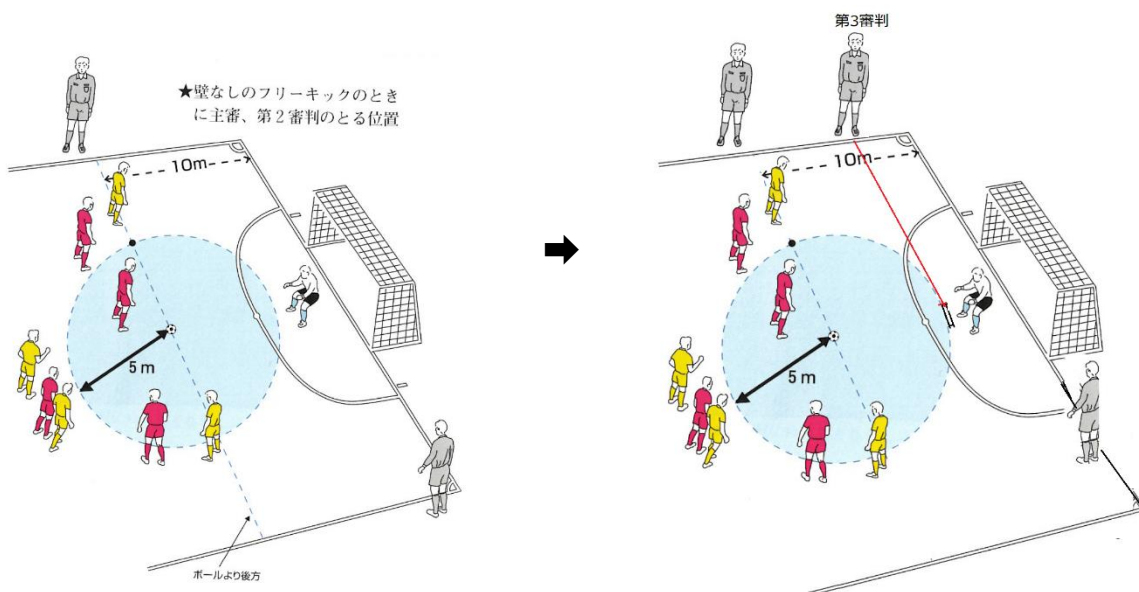
- ◎ ペナルティーエリア内でボールにプレーしようとした結果決定的な得点のチャンスを阻止する反則を犯した結果ペナルティーキックが与えられたならば、退場にはならず、警告が与えられる。
- ◎ ペナルティーエリア内でボールにプレーしようとした結果、相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止する反則を犯した結果ペナルティーキックが与えられたならば、警告にはならない。
- ◎ 決定的な得点のチャンスを阻止する反則にアドバンテージが適用された場合、退場にはならず、警告が与えられる。
- ◎ 相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止する反則にアドバンテージが適用された場合、警告にはならない。

<P53>

*4秒のカウントは、頭の中で行う(手でカウントしない)

<P60>

10m からのキックのときに主審・第2 審判、第3 審判のとり位置

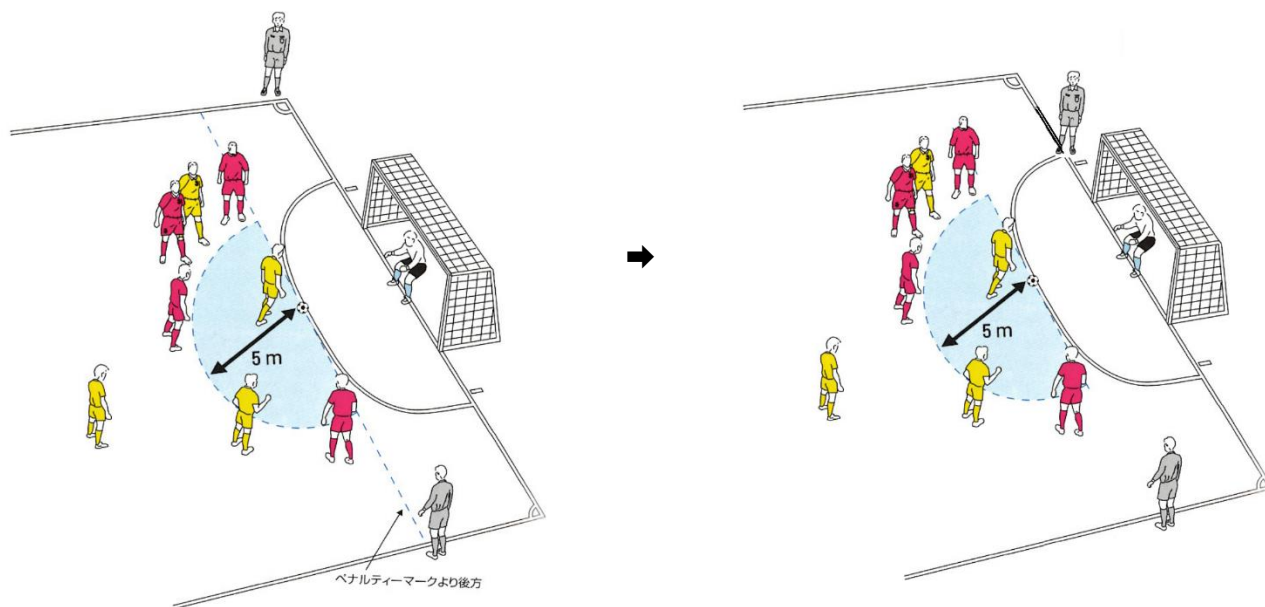


<P61>

壁なしのフリーキックに関するきまり

- ① 4 秒ルールが適用される。主審・第 2 審判が笛を吹いた後、4 秒以内にボールをけらなければならない(主審・第 2 審判は、手で 4 秒のカウントをしない)。4 秒のカウントは頭の中で行う。

<P62>



<P63>

チェックポイント

- ◎ ボールがけられる前にボールから 5m 以内に近づいても競技者は警告されない(繰り返して違反した場合は、警告)。



- ◎ ゴールキーパーを除き、ボールがけられる前にボールから 5m 以内に近づいても競技者は警告されない。ゴールキーパーはボールがけられる前に飛び出し、ボールがゴールに入らなかったならば、警告される。

<P72>

競技者が負傷したら

- ① 5) ピッチ内での治療は、認めない。ゴールキーパーが負傷した場合、ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突した場合、あるいは味方同士が衝突した場合は、ピッチ内で治療することを認める。



- ① 5) ピッチ内での治療は、認めない(ゴールキーパーを含む)。

① 重傷などの場合

- 3) ゴールキーパーが負傷した場合、ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突した場合は、あるいは味方同士が衝突した場合は、ピッチ内で治療することを認める。

↓

- 3) 次の場合、例外としてピッチ内での治療を認める。

- ・ ゴールキーパーとフィールドプレーヤーが衝突し、対応が必要なとき
- ・ 同じチームの競技者が衝突し、対応が必要なとき
- ・ 重篤な負傷が発生したとき
- ・ 警告や退場となる体を用いた反則により負傷し、治療がすばやく完了できるとき
- ・ ペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者がキッカーになるとき

<P73>

プレーの再開

- ② ゴールキーパー、ゴールキーパーとフィールドプレーヤーあるいは味方同士が衝突した場合、治療の終了を待つ。

↓

- ② ピッチ内での治療を認めた場合、治療の終了を待つ。

- ⑥ 主審(あるいは第2審判)の判断でプレーを停止した場合、ドロップボールで再開する。
ゴールに近い地域で～～

↓

- ⑥ 主審・第2審判の判断でプレーを停止した場合、ドロップボールで試合を再開する(P32「ドロップボールの進め方」参照)

チェックポイント

- ◎ ドロップボールを行うとき、その場所がペナルティーエリアライン内の場合、その場所から最も近いペナルティーエリアライン上でドロップする。

<P78>

PK方式に関するきまり

- ② 退場などでキックに参加する競技者数が両チームで異なる場合、キックを行う競技者数を同じくするため、競技者が多いチームのキャプテンはキックを行わない競技者の氏名と番号を主審に通知する。

- * 競技者の多いチームは、ゴールキーパーを“キックと行わない競技者”とし、キックを行わず、守備のみにつかせることができる。

↓

- ③ PK方式に入る前、また進行中に退場などでキックに参加する競技者数が両チームで異なることになった場合、競技者が多いチームはそのままの数でキックに参加するのか、少ないチームの数に合わせるのか選ぶことができる。

- (例) Aチーム14人、Bチーム13人の場合、Aチームは14人のままか13人に減らすのか選択する。

- ④ キックの開始後は、退場や怪我によってキックに参加する競技者数が両チームで異なった場合でも、競技者数を等しくしない。

PK方式の進め方

- ② 主審がキックを行うゴールを決定する

↓

- ② 主審がコイントスをしてキックを行うゴールを決定する。

- ③ 各チームのキャプテンがキックに参加する競技者名と番号を主審に通知する。

↓

- ③ 各チームのキャプテンはキックに参加する競技者名と番号を主審に通知する必要はない。

- ④ 最初にキックを行うチームを決定するため、コイントスをする。トスに勝ったチームのキャプテンが先にけるのか後にけるのかを決める。

↓

- ④ 再びトスをし、トスに勝ったチームのキャプテンが先にけるのか後にけるのかを決める。

- ⑩ 相手競技者数と同じ数にするためにゴールキーパーを”キックに参加しない競技者“として、キックに参加させずベンチに退かせても、そのゴールキーパーは、ピッチ上のゴールキーパーといつでも交代することができる。

↓

- ⑩ キックの前、進行中にゴールキーパーがプレーを続けられなくなった場合、キックに参加している他の競技者または競技者数を等しくするために除外競技者と交代することができる。この交代の前に、ゴールキーパーが既にキックをおこなっていた場合、入れ替わって参加したゴールキーパーは次の一巡までキックを行うことができない。

<P80>

時間の測り方

- ③ ボールがけられて(触れられて)、あるいはゴールクリアランスされてインプレーになったときに時計を進める。

* ゴールクリアランスはボールがペナルティーエリアから出たとき、キックインはボールがピッチに入ったときに、時計を進める。

↓

- ③ ボールがけられて(投げられて)、明らかに動いたとき(インプレーになったとき)に時計を進める。

<P82>

残り時間が0秒になったところでブザーが鳴り、主審、または第2審判が試合終了のホイッスルを吹いて、試合が終了する。

↓

残り時間が0秒になったところでブザーが鳴り、試合が終了する。その後、主審・第2審判が確認のために笛を吹く。

<P84>

Q: コーナーからの5mのマークや第2ペナルティーマークから5mのマークはどのように描くのですか。

A: コーナーからの5mのマークは、コーナークの外側から5mの位置に、ゴールラインから5cm離して、ゴールラインに直角に8cmの幅で、約30cmの長さで必ず描きます。一方、第2ペナルティーマークから5mのマークは、第2ペナルティーマークの中心からゴールラインに平行な5mの位置に、8cmの大きさで必ず描きます。

↓

Q: コーナーからの5mのマークや10mマークから5mのマークはどのように描くのですか。

A: コーナーからの5mのマークは、コーナークの外側から5mの位置に、ゴールラインから5cm離して、ゴールラインに直角に8cmの幅で、40cmの長さで描きます。また、10mマークから5mのマークは、10mマークの中心から左右ゴールラインに平行な5mの位置に、半径4cmの大きさで描きます。

<P85>

Q: シュートを放ったところ、ボールがゴールに当たり、ペナルティーエリア内で破裂しました。主審としてどのように対処すべきでしょうか。

A: プレーを止めます。そしてボールを交換し、破裂した場所から最も近いペナルティーエリアライン上でボールをドロップして、プレーを再開します。

↓

Q: シュートを放ったところ、ボールがゴールに当たり、ペナルティーエリア内で破裂しました。主審としてどのように対処すべきでしょうか。

A: プレーを止めます。そしてボールを交換し、ペナルティーエリア内でゴールキーパーにボールをドロップして、プレーを再開します。

<P89>

Q: ドロップボールで試合を再開しようとしたのですが、一方のチームの競技者がドロップボールの参加を拒否しました。ドロップボールは行えますか。

A: 行えます。

↓

Q: ドロップボールで試合を再開しようとしたのですが、一方のチームの競技者がドロップボールの参加を拒否しました。ドロップボールは行えますか。

A: ボールは、ペナルティーエリア外であれば最後にボールを触れたチームの競技者、ペナルティーエリア内であれば、ゴールキーパーにボールをドロップします。

Q: 守備側競技者がクリアしたボールがタッチライン上にいる主審に当たって、ピッチ内に転がりました。攻撃側チームにキックインを与えるのでしょうか？

A: 審判にボールが当たってとしてもボールのすべてがタッチラインを越えない限り、ボールはインプレーです。キックインは与えられず、プレーは続けられます。

↓

Q: 守備側競技者がクリアしたボールがタッチライン上にいる主審に当たって、ピッチ内に転がりました。攻撃側チームにキックインを与えるのでしょうか？

A: ボールが主審に当たり、大きなチャンスとなる攻撃に結び付いたり、ボールがゴールに入る、

または、攻守が替わったならば、プレーは停止され、ドロップボールで試合を再開します。それ以外は、プレーは続けられます。

<P90>

Q: ボールがクロスバーを越えるほんの少し前に第 2 審判がゴールインの笛を吹き、その直後にボールがゴールの中に入りました。得点は認められるのでしょうか？

A: 認められません。主審は、プレーを停止し、第 2 審判が笛を吹いたときにボールがあった場所から最も近いペナルティーエリアライン上にボールをドロップしてプレーを再開します。

↓

Q: ボールがクロスバーを越えるほんの少し前に第 2 審判がゴールインの笛を吹き、その後にボールがゴールの中に入りました。得点は認められるのでしょうか？

A: 認められません。主審は、プレーを停止し、ペナルティーエリア内でゴールキーパーにボールをドロップしてプレーを再開します。

<P91>

Q: 前半(後半)終了のブザー直前にシュートされたボールが、ブザーが鳴った後 GK 以外の競技者に触れて、相手のゴールに入りました。得点は認められるのでしょうか？

A: 認められません。ボールはゴールキーパー、クロスバー、ゴールポストのいずれかに、またこの組み合わせに触れて(ゴールキーパーに触れた後、クロスバーに触れて)、ゴールインしたならば、得点は認められます。

↓

Q: 第 1 ピリオド(第 2 ピリオド)終了のブザー直前にシュートされたボールが、ブザーが鳴った後 GK 以外の競技者に触れて、相手のゴールに入りました。得点は認められるのでしょうか？

A: 認められません。ブザーが鳴ったときに、ピリオドは終了します。

Q: それでは、シュートされたボールを守備側競技者がペナルティーエリア内で、手で止めたら、それで終了でしょうか。

A: その場合は、ペナルティーキックが相手チームに与えられ、手で止めた競技者は退場が命じられます。ペナルティーキックが終了した後、前半(後半)が終了します。

↓

Q: それでは、シュートされたボールを守備側競技者がペナルティーエリア内で、手で止めたら、それで終了でしょうか。

A: ブザーが鳴ったときにピリオドは終了しているので、ペナルティーキックは与えられません。もし、手で止めたのがブザー前であれば、PK が与えられ、その結果が出た後にピリオドが終了します。

<P93>

Q: 退場後の 2 分間を経過後に補充される交代要員は、交代ゾーンから入らなければならないでしょうか。

A: タイムキーパーの承認を得て、交代ゾーンから入ります。交代ゾーン以外の場所から入場した場合、その交代要員は警告されます。

↓

Q: 退場後の2分間が経過後に補充される交代要員は、交代ゾーンから入らなければならないでしょうか。

A: 第3審判の承認を得て、交代ゾーンから入ります。交代ゾーン以外の場所から入場した場合、その交代要員は警告されます。

↓

Q: 退場後の2分間が経過後に補充される交代要員は、交代ゾーンから入らなければならないでしょうか。

A: 第3審判の承認を得て、交代ゾーンから入ります。交代ゾーン以外の場所から入場した場合、その交代要員は警告されます。

Q: チームの役員がベンチで口汚い発言をしました。主審はレッドカードを示して、そのチームの役員を退場させるのでしょうか。

A: レッドカードを示すことなく、退席させます。イエローカードとレッドカードは、競技者および交代要員に対して示すことができます。

↓

Q: チームの役員がベンチで口汚い発言をしました。主審はレッドカードを示して、そのチームの役員を退場させるのでしょうか。

A: レッドカードを示して退場させます。イエローカードとレッドカードは、競技者および交代要員に加えて、チーム役員にも示します。

<P95>

Q: 間接フリーキックが与えられ、1人の競技者が足で押さえていたボールを数センチ横に動かしたところで横にいた味方競技者がシュートし、ゴールインしました。得点は認められるのでしょうか。

A: 認められます。ボールは触られたところでインプレーになります。

↓

Q: 間接フリーキックが与えられ、1人の競技者が足で押さえていたボールを数センチ横に動かしたところで横にいた味方競技者がシュートし、ゴールインしました。得点は認められるのでしょうか。

A: 認められません。ボールはけられて、明らかに動いたならばインプレーになります。数センチの移動では明らかではなく、ボールはインプレーにならないので、間接フリーキックのやり直しになります。

<P99>

Q: ゴールキーパーがペナルティーエリア内からゴールクリアランスしたのですが、誤って直接自分のゴールにボールを投げ入れてしまいました。オウンゴールとなるのでしょうか。

A: ボールはペナルティーエリアの外のピッチ内に出てはじめてインプレーとなります。得点は認められず、ゴールクリアランスのやり直しとなります。

↓

Q: ゴールキーパーがペナルティーエリア内からゴールクリアランスしたのですが、誤って直接自分のゴールにボールを投げ入れてしまいました。オウンゴールとなるのでしょうか。

A: ボールは、ゴールキーパーが投げ(離して)明らかに動いたならばインプレーになりますが、直接自分のゴールにも相手のゴールにも得点することができません。自分のゴールに張っ

たならば、相手にコーナーキックが与えられます。

<P100>

Q: ボールがキックインのためタッチライン外側に 25cmのところに置かれた場合、けられたボールはいつインプレーになるのでしょうか。

A: ピッチの外側に置かれたボールはけられてピッチ内に入ったときにインプレーとなります。一方、ライン上に置かれた場合、ボールはけられたときにインプレーになります。

↓

Q: ボールがキックインのためタッチライン外 25cmのところに置かれた場合、けられたボールはいつインプレーになるのでしょうか。

A: キックインのとき、ボールはピッチから出たところのタッチライン上に置く必要があります。外に置いてキックインを行った場合、反則となり、キックインを行うタッチライン上のからのキックインが相手チームに与えられます。なお、ボールが、ライン上に置かれた場合、ボールはけられたときにインプレーになります。

<P101>

Q: ゴールクリアランスしようとしてゴールキーパーが手から離れたボールがペナルティーエリアを出る前に味方競技者によって触れられました。プレーを続けることができますか。

A: できません。ボールはインプレーとなっていないので、ゴールクリアランスはやり直さなければなりません。

↓

Q: ゴールクリアランスしようとしてゴールキーパーが手から離れたボールがペナルティーエリアを出る前に味方競技者によって触れられました。プレーを続けることができますか。

A: ボールがゴールキーパーの手から明らかに離されたならば、ペナルティーエリアをでなくても、味方、相手にかかわらず他の競技者はプレーすることができます。もっとも、相手競技者は、ゴールキーパーが手から離すまで、ペナルティーエリアの外にいる必要があります。

<102>

Q. コーナーキックでボールを静止せずにけった場合、キックインと同じく違反となり、相手ボールになるのでしょうか？ それともやり直しとなるのでしょうか？

A. ボールは一度コーナーエリアの中に静止させてから、けらなければならないので、コーナーキックのやり直しとなります。

↓

Q. コーナーキックを 4 秒以上かける反則を行った場合、どのように試合を再開するのでしょうか？

A. コーナーキックに関する反則に対しては、相手チームにゴールクリアランスが与えられます。